



草壁皇子の恋の歌



いきなり女性の名前から始まるこの歌は、題詞によると日並皇子尊が石川女郎に贈ったもので、女郎の名が大名児だったと説明されています。日並皇子尊とは草壁皇子のことです。「日並」は賛美を込めた呼び方

で、『万葉集』ではこちらが使われま
す。天武天皇には高市皇子や大津
皇子ら十人の皇子がいましたが、皇
后(後の持統天皇)との間の子であ
る草壁皇子は次の天皇候補として
尊ばれていました。
さて、この歌の直前、一〇九番歌の
題詞に「大津皇子の竊かに石川女郎
に婚ひし時に、津守連通のその事を
占へ露はすに…」と書かれています。
「竊かに」という語は巻二の中に四例
あり、いずれも行ってはいけない女性
のもとに行く場合に用いられます。
なぜ、大津皇子は石川女郎に通って
はいけなかったのか。それは、隣り合
う一〇一番歌と併せると、石川女郎
は日並皇子の恋人だったから、と読
み取れます。その状況をふまえて大
津皇子の歌「大船の津守が占に告ら
むとはまさしに知りてわが二人宿
し」(大船の泊る津守が占いに現わす
だろうことを、まさしく知りながら

私は二人で寝たことだ／一〇九番
歌)を読むと、大胆不敵な表情まで
想像できそうです。
その大津皇子の歌に続いて、日並
皇子が大名児(石川女郎)を思う恋
の歌が載せられています。「彼方野
辺に刈る草」は「束」を導く序(前置
き)です。今でも「つかの間」という表
現を使うことがあります。『万葉
集』で既に使われています。「つか」と
は「つかみ、指四本分ほどの短さを
表します。そんな短い間も忘れるわ
げがない」という表現に石川女郎への
執着が伝わってきます。
天武天皇崩御の直後、人望のあつ
た大津皇子は謀反の罪で六八六年
十月に刑死します。皇太子だった日
並皇子も六八九年四月に亡くなり
ます。けれど皇子の情熱は、彼の作
として唯一残るこの歌を通して、今
なお実感することができます。
(本文 万葉文化館 阪口由佳)

おほなご
大名児が 彼方野辺に 刈る草の
つかあひだ
束の間も わが忘れぬや

訳
大名児が遠くの野辺で刈る草の、
ほんの束の間も私は忘れるなどということがあろうか。

日並皇子 卷二 (一〇九番歌)



吉野歴史資料館 ☎0746-32-3081
所 吉野町宮滝348 時 9時～17時
(3～11月の土曜・日曜・祝日のみ開館)
※詳しくは吉野歴史資料館HPへ。

吉野歴史資料館 検索

吉野の盟約

『日本書紀』には、天武天皇八(六七九)年五月五日に吉野宮へ行幸したこと、翌六日に、草壁皇子や大津皇子ら六皇子に争いをせざるお互いに助け合うと盟約させたことが記されています。
この時に、天武天皇が詠んだとされる歌(『万葉集』巻一・二七番歌)も伝わっており、吉野歴史資料館に万葉歌碑があります。

万葉ちゃん
つぶやき

和歌に関連するものを紹介するよ!